

平成29年度 第1回鹿児島市男女共同参画審議会 会議概要

日 時	平成29年9月7日(木) 14時00分～16時00分
場 所	サンエールかごしま 特別会議室
出席者 (委員) (事務局)	委員13名 事務局5名 三浦委員(会長)、笹川委員、上ノ町委員、大庭委員、川崎委員、神戸委員、小濱委員、瀧川委員、永吉委員、日高委員、堀委員、山田委員、山本委員 (欠席:石井委員、石窪委員、齊野委員、竹林委員、田平委員、野田委員、村山委員) 市民文化部長、男女共同参画推進課長、男女共同参画推進課係長 他2名
会次第	1 開会 2 新委員への委嘱状の交付 3 議事 (1)本市の男女共同参画の推進状況について ①本市における女性の公職参画状況 ②第2次男女共同参画計画に基づく平成28年度事業実施状況及び平成29年度事業実施計画、指標の達成状況 4 女性活躍アドバイザーとの意見交換 5 閉会
議事概要 ○委員 ●事務局	1. 本市の男女共同参画の推進状況について ①本市における女性の公職参画状況 ○公平委員、監査委員は女性不在の状況が続いているが、何らかの取組はしているのか。 ●これらの行政委員は議会の同意を得て市長が選任すると定められており、数値目標を立てて女性割合増加に取り組んでいる審議会等には含んでいない。 ②第2次男女共同参画計画に基づく平成28年度事業実施状況及び平成29年度事業実施計画、指標の達成状況 ○Ⅱ-2「働く場における男女共同参画と女性活躍の促進」については、もともと女性が少ない職種や職場でいかに女性を積極的に採用していくかというのが大事だと思うが、目標指標にはそのような視点が入っているのか。また、推進施策の(3)に「多様な働き方」とあるのは、具体的にはどのような働き方を想定しているのか。テレワークや短時間正社員などの制度普及のことを含めているのか。 ●目標指標の「女性の採用を積極的に行っている事業所の割合」は、雇用推進課が3年に1回実施している勤労者労働基本調査を使っている。この調査は市内の従業員数5人以上の事業所約1000社を対象にしており、「女性の採用に関してどのように取り組んでいますか」という設問に対し、回答の選択肢が「積極的に採用している」「採用枠を設けて採用している」「採用に関して積極的ではない」「採用していない」となっている。継続して実施している調査なので今回の改定から男女の計画の指標としたところである。多様な働き方については、国の基本計画にもあるが、パートタイム労働や有期契約労働、派遣労働など多様な就業形態に応じて公正な処遇が図られるような支援、また、在宅勤務など柔軟性の高い働き方も含めて就業環境の整備を推進するということである。 ○女性1人だけの採用でも企業の担当者が「積極的に採用した」と思えばそう答えられ、主観的な回答になってしまうと感じる。もし可能であれば、実際に女性が何人増えたかなどの客観的な指標を付け加えられないか検討してほしい。 ○Ⅱ-4の指標「消費生活に関する講座の受講者数」では受講者の年齢層まで考えているのか。このような講座は町内会や敬老会でよくあるが、高齢者だけでなく若い人にも大切な問題である。 ●目標数値は関連講座の受講者の総数であり、年齢層までは考慮していない。ただ、担当課の方では若い世代への消費者教育、特にSNSに絡むものと、高齢者に向けた働きかけを両方とも重視して取り組んでいる。

- | | |
|--|---|
| | <p>○I-1で「ジェンダー」の認知度を100%にするという目標を設定しているが、ただ言葉を知っていたり、聞いたことがあればよいのか、それとも意味を理解して、そういう考えを大事にしていけないといけないと思う人を100%にしたいのか。また、これは高校生など若い世代も含めた認知度なのか。</p> <p>●言葉の認知度については、計画をつくる前年に実施する市民意識調査で調べることとしており、直近では27年の9月に実施している。20歳以上の市民を無作為抽出して実施しており、「言葉も内容も知っている」「言葉だけは知っている」と答えた人の割合であり、ただ言葉を知っている程度の人も含んでいる。ジェンダーという言葉は一般的に日常生活の中では使われないのでなかなか浸透していかない。ただ、ジェンダーつまり社会的性別という概念は男女共同参画社会形成の基本になるので、継続的に聞き続けている項目であり、定期的にアンケートに載せることで市民への周知を図る一助になる面もあるのではないかと考えている。</p> <p>○看護学校で、ジェンダーと女性・男性問題というテーマの授業を行ってきたが、ジェンダーという言葉を知っている学生は1人もいなかった。DVの問題も高校生くらいの年齢で深刻化しているということを踏まえると、小・中・高校での研修をもっと充実させるべきだ。先生自身が互いの人権を尊重するとはどういうことかを理解したうえで子どもたちに伝えていかないと、ジェンダーというキーワードへの理解は深まらない。</p> |
|--|---|